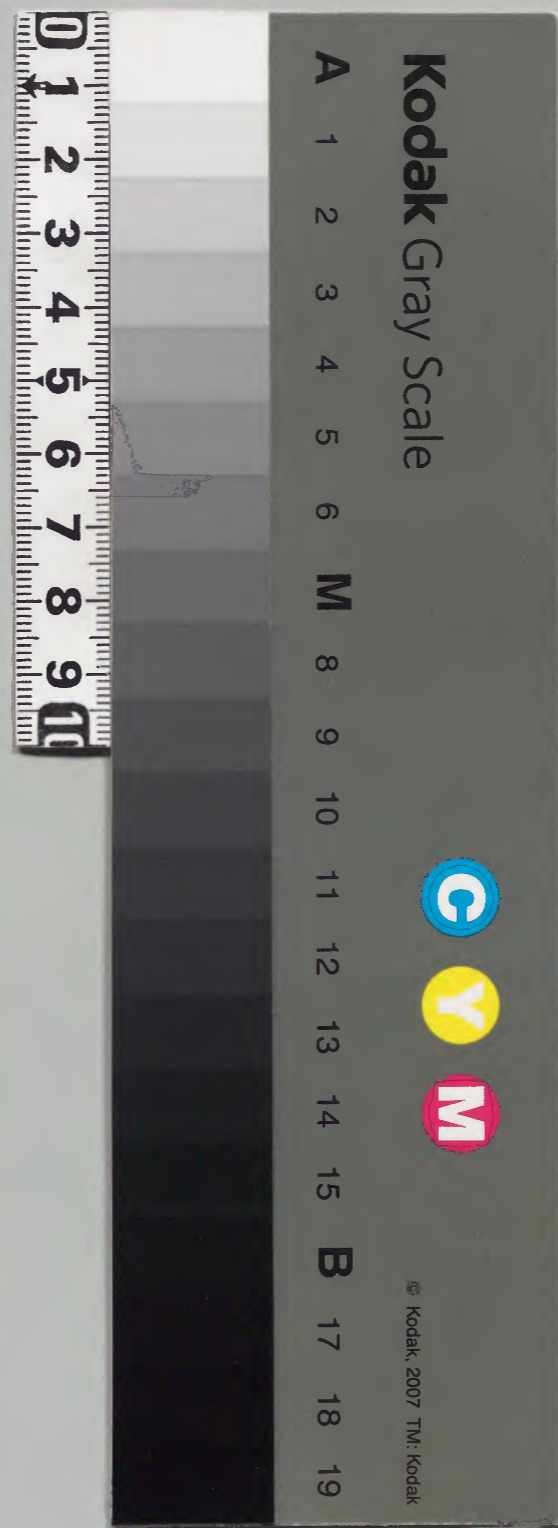


日本書紀傳 三十卷

和書
一〇五二號

百十二

内閣文庫	
番號	和 10522
冊數	156 (121)
函號	特 85 1



綴じ部(喉部分)の文字など開きが不鮮明な箇所あり

教部省
文庫印

圖書
文庫

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

其言王神を其国に遷奉し、其時其供奉する民人

○日本書紀傳三十一

○五百四

丙一三六八三號

亦了可也右四百五十三丁注事共考合可
又淡路天皇天平勝室八年九月丁未遣正親正從
五位下菰田王云神部鴨田連島人奉幣帛於伊勢大
神宮之有神部鴨田連島人奉幣帛於伊勢大
鴨田連島大神部鴨田神社即上神鄉小坐を思ふ此
司卜思也○大三輪君八崇神天皇御紀五年国内多
疾疫民有死亡者且大半矣六年百姓流離或有背叛其
勢難以德治之略七年春二月丁丑相率印詔曰略於是
天皇乃幸于神淺茅原而會八十萬神以下問之是時神
明憑倭迹二日百藝姬命曰天皇何憂國之不治也若能
敬祭我者必當自平矣天白問曰教如此者誰神也答
曰我是倭國城內所居神名為大物主神時得神語隨教

祭祀然於事無驗天皇乃沐浴禱戒潔淨殿內而祈之曰
朕礼神尚未盡耶何不享之甚也冀亦夢裏教之以畢神
恩是夜夢有一貴人對立殿戶自稱大物主神曰天皇勿
復為愁國之不治是吾意也若以吾兒大田根子令祭
吾者則立平矣亦有海外之國自當歸伏秋八月癸卯朔
己酉倭迹速神淺茅原日妙姬穗積臣遠祖大水宿禰
伊勢麻績君三人共同夢而奏言昨夕夢之有一貴人誨
曰以大田根子為祭大物主大神之主亦以市磯長尾
市為祭倭大國魂神之主必天下太平矣天皇得夢益
歡於心布告天下求大田根子即於茅渟縣陶邑得大

田根子而貢之略十一月丁卯朔己卯命伊香色雄而
以物部八十午所作祭神之物即以大田根子為祭大
物主大神之主又以長尾市為祭倭大國魂神之主略於
是疫病始息國內漸謐五穀既成百姓饒之八年夏四
月庚子朔乙卯以高橋邑人治日為大神之掌酒掌酒此
云佐介
拜冬十二月丙申朔乙卯天皇以大田根子令祭大神
略所謂大田根子今三輪君等之始祖也之所見於
古事記也此天皇之御世疫病多起人民死為盡尔天
皇愁歎而坐神牀之夜大物主大神顯於御夢曰是者我
之御心故以意富多之泥古而令祭我御前者神氣不起

國安平是以馭使班於四方求謂意富多之泥古人之時
於河内之美努村見得其人貢進略於是天皇大歡以詔
之天下平人民榮即以意富多之泥古命為神主而於御
諸山拜祭意富美和之大神前と有て下此意富多之
泥古命者神君鴨君之祖と有て少々の異同、互に在
と雖も此時神教の依て大田根子命を神主と為て
大三輪大神を祭祀しめ給へる御事於て違はさる
者あり是神社の神主を置るの始めと其祖先の
神の祭祀、子孫此を預知べき事の起りて道の大
義の係る重事あり虞忽し見奉る可き所非ずあむ

△大倭神社注進狀
小大神祝部者大三
輪君等也書せり
是あり

有けり右四百九十一丁以下葛上郡鴨部波八重奉代主命神社二座並
各神大月次相嘗新嘗を斎奉り高賀茂朝臣ハ高鴨阿
治須岐託彦根命神社四座並各神大月次相嘗新嘗又
葛木坐一事主神社各神大月次相嘗新嘗等を斎奉り
又四百六十五丁己未注如く宗像朝臣の宗像
神社小仕奉り大神朝臣の八幡宮小仕奉り宗像朝臣の宗像
子孫小仕奉り其祖神を斎奉り其地を賜ハり知て朝廷
小仕奉れり例姓氏録大和国神大神朝臣素佐能雄
共あり者あり別地祇
命六世孫大國主命之後也略又根津国神 神人大國主
命五世孫大田根子命之後也又神道同上と有り但
其世數の事ハ右四百六十五丁小委一韓ハたるが如く大
國主神より大田根子命命に至り迄其實ハ八世命
地神本紀所見たるが如く素戔嗚尊九世孫大田

根命子あり大三輪神三社鎮座次第大田根子命
中磯城瑞籬宮御宇天皇七年十二月勅為神主賜大三
輪君其子孫永仕其職と見えたるが地神本紀小謂
ゆり十世孫大御氣持命其職仕奉りけり事云
も更あり此命子三人有る中兄大鴨積命右
九丁小注如く賀茂朝臣の祖あり命田彦命ハ神部
並大神部並の姓を賜へる事右四百八丁小注が如く
小て其中あり大友主命大御氣持命繼て其職小
仕奉りけり同書小次大友主命此命磯城瑞
籬朝御世賜大神君姓と見えたる是あり備皇仁天皇

三年御紀の一云初天日槍乘船泊于播磨国在於冥粟
邑時天皇遣_下三輪君祖大友主典倭直祖長尾市於播磨
而問天日槍曰云こと云事有り然れども上_{百七十}
播磨凡士記小就て辨たるが如く天日槍命の故事ハ
一も大己貴神国作の神代あり一も此ハ決めて
混れたる説の有べしと考以て行ハ其大三輪大神と
同トく渡_下給へる神名式の冥粟郡伊和坐大名持
御魂神社_{名神}の祭祀ハ被赴たり一者ト所見たり其記
ハ謂ゆる伊和君ハ三輪君あり伊和部ハ三輪部ハ
全く同族あり事决ければあり委しく_下其所小就て

考合す可一若て鎮座次第別宮小社之事と有る中ハ
大直祢神社大田、根子命也_中志賀高穴穗宮御宇天
皇御世大三輪君大友主命依_{霊夢}立社奉_斎之_{俗云}
有ハ成務天皇御世の事あり此ハ大田、根子命を
も若宮と称へて斎奉る事ハ一も右_{四百八十}ハ注るが
如く世ハ隔れ_{カニ}も神子と云て大神の直ハ御子
謂めて殊ハ親トく思ふ由有て此命を以て其神
主ハ請ハせ給へる程の御事ありけれハ世を去り
て後ハ大神の御許ハ仕奉るれハ其為ハ夢の諭有
て社を令定りれハ者ありけり此を以ても其子孫の

人の亡たると靈ハ一も其祖神の許ハ必侍る可き理
あるを亦思ふ可うりける若て仲哀天皇九年御紀
小皇后詔大臣及中臣烏賊津連大三輪大友主君物部
膽咋連大伴武以連之、則命四大夫領百寮令守宮中
之見えたれハ當時甚重き列の大夫ハ御在りける
ありけり下五百十備豐前国宇佐郡宇佐大神ハ大神朝臣の世
と仕奉る事ハ此項項あどふ也始れりけり但應神天皇
の御鎮座ハ欽明天皇以後の事ハて神代より御在り
坐す三女神ハ一も事代主神の御祖ハて渡りせ給へ
れハ大神朝臣の祖神ハて渡りせ給ふ御事申すも更

雄略天皇前御
紀ハ三輪君身授
之云人見ゆ又

あれハあり又神功皇后元年御紀ハ秋九月庚午朔己
卯令諸国集船練兵甲時軍卒難集皇后
曰必神心焉則立大三輪社以奉刀矛草衆自衆と有ハ
神名天々筑前国夜須郡於保奈牟智神社と有ハ是ハ
るガ右の大三輪大友主君の此事ハ預り此ハ由ハ見
えざりけれども此命を以て令祀給ふ可き事理ハ於
て適る可うござる所ありけり備此大友主命ハ御紀
ハ右の如く無仁天皇三年の所ハ始て出たるを已
ハ崇神天皇御世ハ大神君姓を賜ハりハ人ありけり
ハ無仁天皇三年ハ九三十三歳許の人と見て神功皇后
元年迄を推すハ九二三百五六十歳の齡あり此時右
の四大夫の列ハて供奉りける猶眞盛ハ御在り坐
けるハ敏達天皇十四年御紀ハ三輪君逆と云人見ゆ
其細書ハ或本云物部弓削守屋大連大三輪逆君中臣
磐余連俱謀滅佛法欲燒寺塔并棄佛像馬子宿祢諱
而不從と有て當昔国家の爲ハ大なる忠臣ハて在り

是日三輪君高市
麻呂置始連多當
上道戰于若原天
破也口軍

〇同六年中當
三月三日將幸伊勢
云是日中納言直
大敷三輪高市麻呂
上表致直三言諫
天皇將幸伊勢勿
於農時云云是

中納言三輪朝臣高市麻呂脫其官位敬奉上於朝重諫曰農作之節車駕未可致動之有于此依之中納言口を前此

輪君大口白雉元年小三輪君應穗云有于天智天皇
二年御紀小三輪君根麻呂云人見ゆ天武天皇御紀
小至りて其終暎三流有于事見ゆ一ハ大三輪君を
ハ其元年ハ乃今吹負拜將軍是時三輪君高市麻呂云
群豪傑者如響悉會將軍麾下云云其十三年ハ十一
月戊申朔大三輪君賜姓曰朝臣と有于朱鳥元年ハ下
ハ大三輪朝臣高市麻呂と出たり持統天皇三年御
紀ハ二月甲申朔己酉大三輪朝臣安麻呂為判事と有
て是大神朝臣の正流あり二ハ其天武天皇元年御
紀六月天皇東國小御在坐けり時ハ越大山至伊勢

鈴鹿愛國司云ハ大三輪君子首及云ハ等參遇于鈴鹿
郡云ハ秋七月庚寅朔辛卯天皇遣云ハ三輪君子首云
ハ率數万衆自伊勢大山越之向倭其五年八月の下ハ
是月大三輪眞上田子人卒天皇聞之大哀以壬申年之
功贈内ハ紫位仍謚曰大三輪眞上田迎君と有て是時
迄ハ三輪君ありハを大字を加給ハ眞上田君の姓を
賜ハリハあり故文武天皇御紀ハ大宝元年七月壬辰
壬申年功臣隨功勞亦賜食封並有差又勅先朝論功行
封時賜云ハ神麻加牟陀君兒首十一人各一百戸云云
且依令四分之一傳子と有ハ田令ハ允功田中功傳二

ハ九十五人賞又並
各異ハ而自居中第

山統紀小神護皇雲
 二年二月壬午大和國
 人從七位下大神引
 公足人大神私都公
 猪養大神波多心
 石持等廿人賜姓
 大神朝臣有波
 引三三代實錄
 見合する大神引
 田朝臣姓を賜へ
 めるを引田三
 字を脱せり若

世と有る御令の任小治給へるあり其後何れの御時
 の朝臣の姓め成されし清和天皇貞觀四年實錄
 小直神田朝臣全雄賜姓大神朝臣大三輪大田根子
 命之後也と見えたり三十八天武天皇十三年御紀小
 五月辛亥朔戊寅三輪引田君難波麻呂為大使云々遣
 高麗と有り古事記朝倉宮段出たる引田部赤猪
 子ハ一も其族ある由小て記傳四十一二十九引田部
 ハ大御歌小比氣多能と有る依て訓べし知名抄小讚
 岐國大内郡引田郷有る其も此竹多と書せり神名
 帳大和國城上郡曳田神社有る此地小因れる姓ある

可又佐渡國雜太郡引田部神社有る光孝天皇仁
 和三年實錄大神朝臣良世云々大神引田朝臣等遠
 祖皇自汎別各異之此大神引田朝臣ハ彼三輪引田
 君有る可此依れ大神朝臣の支別あり採と云
 此たるが如くあて己く別れたり者あり右の曳田
 阿自筆神名帳小短田大明神と作り知名抄郷名小
 上郡藤田と有る是あり若て佐渡國雜太郡引田部神
 社を佐渡志小大己貴命を祭る由云るを以て右の曳神
 田神社も共小其祖神のて渡り給へる大己貴神を曳
 祀りたる可事考思ふ可上九十一丁又四百八八
 十八丁小注事共を考合す可き者あり諸記傳小天
 武天皇御卷小引田朝臣廣目引田朝臣少麻呂引
 人見えたる此姓と云れ引田朝臣少麻呂引
 神護景雲二年御紀小猶大神引田云と有る未朝臣
 の姓を賜りざりけれハ別人あり右の女麻呂ハ朝臣

○日本書紀傳三下

○五百十二

武天皇御紀山慶雲元年十一月丙申改從四位下引田
朝臣宿奈麻呂雖賜阿倍朝臣と有るを以て其別あり奉
を曉る 右の大三轮朝臣高市麻呂大三輪朝臣安麻呂
二人ハ統紀ハも百りて文武天皇大宝二年正月乙酉
從四位上大神朝臣高市麻呂為長門守同三年六月乙
丑以從四位上大神朝臣高市麻呂為左京大夫慶雲三
年二月庚辰左京大夫從四位上大神朝臣高市麻呂卒
以壬申年功詔贈從三位大花上利金之子也と有り元
明天皇慶雲四年九月丁未正五位下大神朝臣安麻呂
為長和銅元年九月壬戌正五位上大神朝臣安麻呂
為攝津大夫同二年正月丙寅^授正五位上大神朝臣安麻

呂從四位下同七年正月甲子授從四位下大神朝臣安
麻呂從四位上同丙戌兵部卿從四位上大神朝臣安麻
呂卒と有り其兵部卿ハ何時拜れ奉れりハ不懐凡
薄ハハ從四位下兵部卿大神朝臣安麻呂一首 年五
十二と有る下ハ上字を誤れりありけり又文武天皇
慶雲元年正月癸巳正六位上大神朝臣狛麻呂從五
位下和銅元年三月丙午從五位上大神朝臣狛麻呂為
丹波守同四年正月壬^并從五位上大神朝臣狛麻呂正
五位下靈龜元年四月丙子正五位下大神朝臣狛麻呂
正五位上^同五月壬寅正五位上大神朝臣狛麻呂為武藏

守と有て此小從五位上を脱せり元明天皇和銅五年
正月戊子授從六位上大神朝臣押人從五位下靈龜元
年二月丙寅從五位下大神朝臣忍人為氏上と有、高
市麻呂安麻呂より傳へて嫡家と見えたり又和銅六
年正月丁亥授正七位下大神朝臣興志從五位下同八
月丁巳從五位下大神朝臣興志為讚岐守と有り聖武
天皇神龜元年二月壬子授正六位上大神朝臣通守從
五位下と見、同天皇天平元年三月甲午授正六位上
大神朝臣乙麻呂外從五位下同四年十月丁亥外從五
位下大神朝臣乙麻呂為散位頭同五年三月辛亥授外

從五位下大神朝臣乙麻呂從五位上と見え又其天平九年二
月戊午授從四位下大神朝臣豐島從四位上と有、前
紀のハ見えぬ人なその女官の中交りたれ其列あり 五へき又天
平十八年四月癸卯授正六位上大神朝臣麻呂從五位
下同十九年四月丁卯天皇御南苑大神と主從六位上
大神朝臣伊可保授從五位下と有て此小神主の号始
て出たり此を以考る古ハ大神朝臣の祖先より大
神大物主神社の神主を職として朝廷にも仕奉り
けむを此項に至りてハ其氏宗の人ハ朝政を主として
仕奉りけむオホヤケト天事ハ暇無り故ハ其氏族の

中より別小神主と有べき人を擇て仕奉るしめ給へ
 る者に見えたり右の奉たる忍人朝臣ハ從五位下ハ
 一て此上たりし其神主の職ハ任され奉るが故
 可くして漸ハ神事の衰を萌せるの衰ハ可き事
 共あり 右の如く御紀ハ大輪朝臣と書れしを
 續紀ハ皇御紀ハ大輪朝臣と書る事あり是
 の神君の神字美和と訓り抑美和を神と書く故
 古大倭國ハ皇大宮敷坐り御世ハ此美和大神を
 殊ハ崇め奉るて唯大神と申せハ即此神の御
 掌酒とも金祭大神とも有ハ美和大神あり故遂ハ其
 文字を即大美和と云ハ用事ハ成れりけむ云
 と云れしハ然言ハハ猶神代ハの事ハ給ヒ唯ハ
 打任せて大神と申すハ大已貴神ハ渡らせ給ヒ神
 どのに申すハ事代主神を指たりし故ハ後ハ然る文

字を用る故字の出 淡路 天皇天平 宝字四 年正月 西貢抄
 来りし者ありけり 正七位上 大神朝臣 妹 從五位下 天平 神護元 年正月
 已亥從 五位下 大神朝臣 伊毛 從五位上 之有ハ同 一人
 あり又天平宝字八年正月乙巳授正六位
 下大神朝臣奥守從五位下之有ハ此人ハ事後ハ見え
 天^祿平神護二年十一月丁巳從六位下大神朝臣東方
 從五位下之有ハ此ハ女官あり光仁天皇宝龜七年正
 月丙申授正六位上大神朝臣未足從五位下同十二月
 丁酉從五位下大神朝臣未足為遣唐副使同十年三月
 辛亥遣唐副使從五位下大神朝臣未足等自唐回至同

四月辛卯授遣唐副使從五位下大神朝臣末足正五位
下天應元年五月癸未正五位下大神朝臣末足為左中
辨之見元九又宝龜十年正月甲子授正六位上大神朝臣三支
從五位下と見え天應元年五月癸亥授正六位上大神朝臣船
人從五位下同乙丑從五位下大神朝臣船人為少將延
曆四年正月辛亥從五位下大神朝臣船人為上野守と
有上六下注せる神名式小謂ゆる上野国山田郡
賀茂神社美和神社の御事のも思及す可き者あり又
桓武天皇延暦九年三月辛亥從五位下大神朝臣人成
為大膳亮と見え同十年正月戊辰授正六位上大神朝

臣仲江麻呂從五位下同己丑從五位下大神朝臣仲江
麻呂為畫工正同七年癸亥從五位下大神朝臣仲江麻
呂為内兵庫正と見え上統紀の見えたる大神
朝臣の較略あり右の擧たる次序を以て考す小孝謙
へたり一狀の見四右の内何れの長と云事も知ハ
うさるの至れり大倭社注進狀の南家口傳云藤
原是公立率川社と有此ハ大臣是公公小至りて再
其家を令起給へるり然三時ハ船人朝臣氏宗九少一
定而祭不定者不祭即大神族姜之神也と有小思合す
可き者若て右ハ下小注るカ如く豊前国宇佐大神小
大神朝臣の仕奉る事ハ其此費神ハ一と大己貴神の
后玉依姬命の屬た事ハ一と筑前国宗像大神小同族

ある宗形朝臣の仕奉ると同じ事あるが、何れも御世
より然有けむと云事ハ今知べくと云と雖も仲哀天
皇九年御紀ハ所見たる四大夫の中ハ大三輪大友主
君有て西征の御政ハ仕奉りしハ此御時より
事ハとらハ有つゝの統紀ハ聖武天皇天平二十年八
月乙卯八幡大神祝部從八位上大神字女從八位上大
神社女並授從五位下孝謙天平勝宝元年十一月
辛卯朔八幡大神祢宜從五位下大神社女主神司從八
位下大神田麻呂二人賜大神朝臣之姓己酉八幡大神
託宣向京甲寅遣參議從四位上石川朝臣辛足侍從從

五位下藤原朝臣魚名等以為迎神使云々十二月戊寅
遣五位十人散位二十人六衛府舍人各二十人迎八幡
神於平群郡是日入京即於宮南梨原宮造新殿以為神
宮と有、此神託の神の御心より出たるあるものと
此事ハ就て右の社女大なる妖言を設けたり同丁亥
八幡大神祢宜大神朝臣社女其輿紫色并東大寺天皇
太上天皇太后亦同行幸略中因奉大神一品此賣神二品
左大臣攝朝臣諸元奉詔白神曰云々左社女授從四位
下主神司大神朝臣田麻呂外從五位下と有を歷朝詔
詞解三九抑此詔の有ける事の由を考ふるハ先天平

二十年八月大神宅女大神社女を並授外從五位下と
見え今年十一月朔日大神朝臣姓を賜へる事と皆此
詔に見えたる託宣を奏せし故の賞ある可し然るに
天平勝宝六年十一月甲申藥師寺僧行信典八幡神宮
主神司大神多麻呂等同意厭魅下所司推勘罪合遠流
於是云し以行信配下野藥師寺下身從四位下大神朝
臣社女外從五位下大神朝臣多麻呂並除名從本姓社
女配於日向国多麻呂於多禰島因更擇他人補神宮祢
宜其封戸位田并雜物一事以上令大宰檢知焉と見え
備天平神護二年十月甲申授無位大神朝臣田麻呂外

從五位下為豊後員外掾田麻呂者本是八幡大神宮祢
宜大神朝臣毛理賣時授以五位任神宮司及毛理賣詐
覓俱遷日向至是復本姓と有を見此ハ彼厭魅の事田
麻呂ハ冤あり唯行信ハ社女ハ所為あり有ける斯れ
ハ社女ハ甚穢き奴あり此ハ依て思へハ此詔に見え
たる八幡大神の託宣も又京の向ハむと有し託宣も
共ハ此社女ハ詐偽りて造りし事あり有ける猶又
尼ありて祢宜ハ成れりしも例の託宣ありて有
けり凡て此項の御世ハ彼行基僧が伊勢太御神の
託宣を偽造りて朝廷を詐欺奉りて禍事を行ひたり

類の事多在り... 甚く明くけし... 但右の京の向ひむと有し神託... 行基等の妖僧の欺れさせ御在り坐て東大寺を造る... 七年の下の三月丁亥八幡大神託宣日神吾不願矯託... 山野里奉返朝... 此の社に女奴が私欲を出て然る詐偽を行へり... 仕奉る大神氏ある可し後紀の弘仁十二年八月戊寅... 時祭式あり八幡神宮司以大菩薩宮司と云御定有て臨... 神他氏と有り具原氏との八幡本記の遠孫田麻呂初て大... 宮司の任す其後五六世大宮司職の任せり...

又續紀小光仁天皇
 皇宝龜七年十二
 月庚戌豐前國
 京都郡人正六位上
 播磨國比羅姓
 大神播磨國臣者
 右の大神氏と同
 族あり

と云り其此義ハ傳十八卷七十三丁云云... 天皇御世の人あり其大神比義より上方必大三輪大... 及主君の出又播磨國伊和君又伊和部ハ三輪君又三... 輪部と云事あるが此の就て淡路天皇天平宝字五年... 四月戊申賜從六位下大神東女等十六人播磨國稲人... 六百束と有る此大神東女ハ京人ありむ... 畿内の稲を賜ふ可きハ播磨國稲と殊更ハ書され... 其本國の田租を賜へる者と所見たり此國ハも... 大神氏の在ける由ハ上 百三十一丁ハ注其風土記... 饒磨郡伊和郷の文ハ右号伊和部者積藩郡伊和君等... 族到來居於此故号伊和部と見えたるハ其本あり矣

永郡伊和郷の文の伊和村本酒名大神釀酒此村故云神
 酒村云々と有て此大神と申すハ即大己貴神の御事
 の渡りせ給へるハ伊和と美和と本同言ある事右の
 如く慥ある證有る上ハ他国ハ美和と唱ふるも此
 国ハ其一流共ハ伊和君と云ハ其群を伊和部と
 ハ云習ハ一者ありけり播磨国宍相記ハ宍粟郡
 伊和坐大谷持御魂神社名神の御事を欽明帝治サ五
 年託伊和恒郷可祭朕於此地云々云云ハ古くより
 美和と云ふハ伊和と唱けるハ祖右の大
 若此説の如くありむハ伊和果と書テ可きハ神東女と
 ざるハ猶京の方ある可きうとも思内れども伊和

ハ彼国ハ例の称ありけれハ其廣き
大大神氏の例ハ並書されたるあり又神人ミツヒトと云姓ハ
 称徳天皇神護景雲二年八月癸卯出雲国島根郡人外
 従六位上神掃石公文麻呂意宇郡人外少初位上神人
 公人足同郡人神人公五百成等廿六人賜姓大神掃石
 朝臣と見えたるハ古く神掃石公又神人公と云姓ハ
 有ハあるガ神字ハ例の美和と訓ベ一掃石ハ地名ハ
 ありども更ハ考ふ可き據無きを掃部を迦途母理と
 義訓すより轉借て迦母志と云あるハ也凡土記島
 根郡末官知社の中ハ加茂志社と申す御在ハ坐すハ
 令釀シカモの義ハ例の神酒を此ハ釀して熊野杵築兩神

公又ハ掃石ト書テ
布自訓ニナリ
ハシ然リ時

宮山奉子謂ある可く也 正五丁注三如く神名
式小謂ゆり同郡布自积美神社ハ大己貴神小渡了せ
給ひて駿河国富士山を造成了せ給へる御靈を齋奉
れりあれハ神掃石公ハ此ハ在テ其祖神小仁奉れり
之云べく猶地神本紀を見り小大田ト根子命の子大
御氣持命此命出雲鞍山祇姫為妻生三男ト有る中ハ
大友主命ハ大神朝臣の祖小坐るハ式小當郡久良弥
神社見え給へるト申有げある事共あり若て其意字
郡ある神人ト共小賜姓大神掃石朝臣ト見えたる
ハ式小其意字郡布自奈大穴持神社御在坐て右の

布自积美神社ト曰神あるハ大同類聚方八ハ出雲乃
神樂出雲国意宇郡布自奈大穴持神社乃神方十二方
之一ト有て其余ハも多ク傳ハれりハてハ其神裔亦
ハ大神氏ハ所縁深ク所見ハ掃石ハ布自訓ハ
事決クあむ有ける又桓武天皇延暦四年正月癸亥攝
津国能勢郡大領神人為奈麻呂云々等居職匪懈撫民
有方於是詔並授外從五位下ト有ハ其隣ハ河邊郡
小和名板小大神於保郷見之神名式小鴨神社加茂村
小御在坐又多太無就社多太無也給不由有給不事共あり又姓氏録國攝
別地 小鴨部祝賀茂朝臣同祖大國主命之後也ト有ハ

○日本書紀傳三十一

○五百三十一

も出自同トウリけ此が得去オトキ所以あるカ右の
神人即其並カ神人大国主命五世孫大田ノ根子命之
後也ト見え又神直同上ト有る是あり神直ハ未書共
ト見當ルカ
此の神人ト同ト姓めて同録河内国神別天神カ神人
御宇代首同祖可此良命之後也ト有ハ大和国神別天
神カ御宇代首天御中主命十世孫天諸神命之後也ト
見えたる一美めて此トハ別あり思混ふ可クテ諸
右の出雲ありカ神人公あるカ万葉十卷カ信濃国
埴科郡神人部子忍男ト云人各出たりカ見ルカ神
人又神人公カ属て神人部ト有しありカ諸神人ト云
ハ神酒人ト云事めて上古カ酒を醸む事を行事ト為
り任奉れ備文武天皇元年御紀カ九月丙申京人大神
大網造百足家生嘉紹ト云事見えたり此網字ハ典佐
美ト訓べ御紀カ依羅池依網池依網比倉ト書れ

又依網君依網連あども書れたれども姓氏録カ網
部又ハ網津守連あども依網を一字カ約めて網トハ書
れたる者あり其孝謙天皇天平勝宝二年八月辛未振
津国住吉郡人外從五位下振津国住吉郡人外從五位
下依羅我孫忍麻呂等五人賜依羅宿祢姓神奴意伎奈
祝長月等五十三人依羅忌寸姓ト之事有ハ姓氏録振
津
国皇カ依羅宿祢日下部宿祢同祖彦坐命之後也續日
本紀合ト有る其カ別ちて大網造ト云ハ其統脉カ
異あるを別たカ為カ大神トハ冠カセ云ありけり
即神名式カ振津国住吉郡大依羅神社四座並名神大
月次相嘗

新と有る此神名の太依羅と姓の大網造と全く一事
ある者あり諸此御社の御事ハ傳十四百三十一丁
上三百五十一丁
小注るが如く其本社ハ丹後国典謝郡籠神社各神
大
り出て所祭海神と思しきを社説ハ月読尊大己貴
命五十師命垂仁天皇と傳へたり其月読尊の荒魂ハ
海神ハ御在し坐ハ事ハ違ハるハ非ず然して其次
ある大己貴命右の大神大網造の祖神ハ御在し
坐ハ姓氏録撰津国神別地祇ハ上件ハ引了神人神直ハ並ハ
て我孫大己貴命孫天八現津彦命之後也と云事見え
たるハ撰陽群談ハ大依網神社天八現彦命と書せる

合下五百三十一
丁上三百五十一
丁
其本一

を以て其從祀と成給へる事ある著りけるを其我
孫ハ依羅我孫の事あるハ右の大神大網造と其孫一
ある事云も更あり然る時ハ上四百七丁ハ注るが如く
天日方奇日方命と此ハ現津彦命とハ同神ハ御在し
坐す事決きを其名義ハ例の弥あり現津ハ顯世又
顯国又顯身あるの字都志不同ト此ハ御祖父大己貴
神御父事代主神ハ一ト天孫ハ此顯国を避奉給ふと
て幽冥ハ隱給へるを此命ハ顯国ハ留まり御在し坐
て天孫の初国所知食す御時迄を待奉給ひて姑く申
食国政大夫として仕奉給ひて万世の基を定奉る也

給へるふれば此弥現ミタマとハ其経給へる年數の甚長
御在し坐ける由ありと聞えたり且幽頭相別れて程
時ハ高千穂宮タカチホノミヤハも参向ひ給ひ又ハ白檮原宮シロキナノミヤハも参
出給ふふ或ハ幽れ又ハ顯れあど度ハ為させ給
ハるを以て弥現ミタマと申せざる可ハ大己貴神奉代
主神の国巡の時ミコトノクニノメグの天日方アマヒノカタ命ノミコトハ坐せハ其
経給へりハ世の久しき事コトノキウシキコトを思ふ可オモフコト者ハ未定ミテイ雜姓シヤク
右の我孫ハ大神大網造の流あるを姓氏録未定雜姓
の中ハ我孫公豊城入彦命男倭日向健日向八網田命
之後世ハ有ハ我孫公ハ依羅我孫ハ非ずハ別不
り續後紀ハ兼和三年十一月壬辰河内国八咫七位
下我孫公諸成散位同姓阿比古道成等賜姓秋原朝臣
別ありと聞ハ其諸国ハ在ハゆる大神氏の物ハ所見
たるハ上ハ八下ハ己ハ注ツケるが如く越後国頸城郡奴奈
川神社ハ大己貴神の妃沼名川比賣命ハ御在し坐

國紀

あるハ大同類聚方十四ハ於古之藥越后国頸城郡奴
奈川神社ニ傳留方大祝大神巖彦等所奏之方元者大
汝持神乃神九周理と有ハ同郡大神社御在し坐同書ハ志
乃久良藥と云有ハ越後国大神社傳方元波大己貴命
傳方也大領大神臣玉手等之家方と有ハ又居多神社
ハ本より大己貴神ハ渡ワタせ給へるを同書ハ小三
輪藥越後国頸城郡居多神社傳方元者少彦名神削大
己貴神傳方祝子大神保公等家方也と見ハ又佐多神
社ハ猿田彦神ハ一ハ即率代主命ハ渡ワタせ給へる
を同書ハ奈也未藥越後国頸城郡佐多神社傳方元波

△方由河波治
藥淡路伊佐奈
伎神社傳流
方其元者大貴
命乃神

大己貴神傳削也。○祝小領大神臣○高等之家方と有
少又佐美豆藥越後國頸城郡早水郷京田村主頸城郡
少領无位大神臣等之家傳云々大己貴神授云々と有
小此大神又大神臣等の族多在けるあり又淡路國
津名郡淡路伊佐奈伎神社名神小仕奉る大神氏有り
同書十一小津名藥淡路國津名郡津名里那射長埜麻
呂麻呂之家二傳累處之方其元者大元年智命乃神玖須
離奈利神裔大神資古奏之十八小淡路藥津名郡伊佐
奈岐神社二傳方元者大穴持命神方也廿七小南岐藥
淡路國津名郡淡路伊佐奈伎神社之神方當社仁大穴

持命乃神方傳不留藥十六方阿里其一方是奈里と有
乙右の琴たる中小大神氏の名有ハ唯一方のとあり
と云ふ元てを大己貴命の神方と云を以てし其家子
傳へたる事著明き者あり
又上四百六十二丁ハ
引或書ハ云く平家
物語ハ豊後國祖女岳明神の事を云奉三輪の故事
小同ト大友興廢記ハ此説を載せて猶委一彼國ハ
豊後國八田あり桓武天皇の御時堀河大納言某吉方
莊日野小田名宇田村ハ配流有ハ其女小祖女岳の神
通ハ弘仁二年卯年三月五日一男子生す是大神朝臣
惟基ありと云り今佐伯氏其子孫ハ伊勢の津ハ
任せり彼家劍鋒多シ中ハ巴作と云大ハ祖母岳
より相傳ハ号して大ハ秘す藤堂高次寛永三年十月
十日彼大刀を見し時座敷の板敷類落と思ハ
基ハ右五百十八丁ハ注せる大神朝臣田麻呂ハ豊後
員外縁ハ成れりハ其子孫ハ可きハ故三宗の

今難波長柄豊前
宮御宇竹村立地
倉磯部直夜手
助督仕奉と有る
又

故事を其国に取成 ○上四百七ノ石邊公の事をハ粗
注せるが元来石邊ハ功部ノと云事あるハ亦唯ハ磯連
と云も有ハ諸国ハ大己貴神の国造坐一御功を美称
へて祀れるを石部神社と申せル又上二百六十四
ハ注るが如く伊勢国度會郡磯神社多気郡伊蘇上神
社伊豫国新居郡伊曾乃神社伊豫郡伊曾能神社等ハ
大己貴神を斎祠スるハ是石部と伊蘇と相トテ證
共あり此ハ就て考るハ皇太神宮儀式帳ハ磯連年良
助督仕奉と有ル 伊委ノ時ハ其正ノ人ヲ云テ群ヲ云テノ差別ハ有テ事アリト
事知ルれたり勅使部類ハ天仁三年六月山田村任人

石連武時と云人ト見えたり偕又儀式帳皇太神宮御
遷行の文ハ次百船字度會国佐古久志呂宇治家田、
上宮坐支尔時宇治大内人仕奉宇治土公考遠祖大田
命宇汝国名何問賜支是川名佐古久志苗伊須コ乃川
止申と有る倭姫命世記ハ猿田彦神齋宇治土公祖
大田命と書せる此宇治土公ハ氏名ハト非ず職名ハ
も非ず宇治ハ其五十鈴宮の邊の地名あり土公と云
ハ神名ハ大地主神オホツチノカミト申せる地主ハ同トクト遠祖
猿田彦神より次ト相承て皇太神の鎮り御在一坐ス
迄其地主と為て此所を守居たりが己ハ皇太神ハ奉

の—後も其舊儀に依て土公とハ云るゆへに譬へハ古
ハ國造めて國々を^持てゆ—を後ハ國司を置れてよ
り其職をバ失ひあ^らず其氏姓の外ハ國造と稱と此
も同ト奉て所見たり偕其大田命と申すハ右^{四百七}
ハ注^るか如く天日方奇日方命^の裔^{（坐其裔某の名脱たり}
君大三輪君よりハ己く別れたゆ—子孫^{と見ゆ}然
ハ上^{二百七}ハ己ゆと注^るが兵部省式ハ志摩國鴨
部磯部の地名有ゆ合せて其風土記ハ答志郡伊佐部
鱸菽神社事代主命也命得鱸魚祭天神地祇之地と有
る此伊佐部ハ石部と云ゆ同ト^まき^が此邊を後ハ加茂

郷と云ハ更あり其國号の事を島者安曇別神ト迹也
云^ハ天日方奇日方命至此舉言云豊志摩魚足三国哉
後竟為國名と云事と有て右ハ二柱の御事迹の此ハ
御在—坐ゆ心を著へき者あり^う若て儀式帳ハ
宇治大内人無位宇治土公磯部小繼と有て其姓を磯
部と云ハ姓氏録ハ石邊公大物主命男久斯比賀多命
之後也と有を一本ハ大國主命男と有ハ上^{四百七}
辨^{たり}が如く共ハ誤ある者^う又右等の事共ハ合
る者あり若て儀式帳ハ地祭物忌清酒作物忌瀧祭物
忌御筥作物忌陶器作物忌御巫物忌山向物忌御馬飼

物忌あや云人々皆磯部姓ある山外宮儀式帳の内
人物忌の中五人有り齋宮式小戸坐用二見郷磯部
氏童男と見え雜事記天平三年六月十六日の二見郷
長石部郡司島足と云人を載せ三代實録の仁和二年
九月卅日齋宮舍人磯部豊繩と云人名見えて凡て度
會郡中充て廣き旗ありけり儲右等の磯
部氏の正しく天日方高日方命の子孫ある可き證ハ
建久行事記四月例小宇治氏石部氏同初申祭也宇治
氏字上社祭石部氏岩井田山口祭也と有る宇治ハ右
小謂ゆる宇治土公あるを其流分れて別小祭を成す

△若くは馬屋記
小出郡出石郷谷
山川上有神皇
上社新祭事代主命
と有る其高水上
神の謂小依り可
事申と更なる御
事あり

事と聞えたるが其岩井田山口ハ儀式帳未官知社の
中ハ石井神社大水上見高水上命形石坐と有る是あ
右の上社ハ小社神社大水上見高水上命形石坐と
有る是り若然くずハ其遙社ある可き其同ト旗ハ
して氏神の異なる可き謂無此ハあり儲其大水上命
と申すハ傳十百十注三下如く高靈神小渡りせ給
ひ高水上命と申すハ此一書小謂ゆる溝檝姫命ハ
御在り坐す御事を明くむる時ハ即事代主神の後神
小御在り坐して天日方高日方命の御祖ハて渡りせ給
へ此ハ其石邊公の同族と有る宇治石部二氏の氏神

娘生高市皇子命之有る此德善ハ瑞珠盟約章ハ謂内
子筑紫物有君あるが其女を采女あるハ奉置つるが
納れ奉りて其縁ハ由て在京ハつる者と見内同十三
年十一月戊申朔曾方君賜姓曰朝臣と有ハ彼壬申の
功臣と云ふハ非れハ其外威たるハ依て然る^{モトナリ}龍命ハ
御在ハ坐けるありけり偕其本國あるハ神名式ハ謂
ゆハ筑前国宗像郡宗像神社^{並名ハ仕奉りて世ハ其}
郡領として神主^{を兼}たりハあり統紀ハ元明天皇和銅二
年五月庚申筑前国宗像郡大領外從五位下宗形朝臣
等持授外從五位上と見え又聖武天皇天平元年四

月乙丑筑前国宗像郡大領外從七位上宗形朝臣鳥麻
呂奏可供奉神事之狀授外從五位下賜物有差同十年
二月丁巳筑紫宗形神主外從五位下宗形朝臣鳥麻呂
授外從五位上と見え同十七年六月庚子筑前国宗形
郡大領外從八位上宗形朝臣興呂志授外從五位下と
有ハ此ハ神主とハ書されども延曆十九年十二
月太政官符ハ當郡大領補任之日例兼神主即叙五位
と有^{其神主たる事}り知^るれ九^ノ又称徳天皇神護景雲元年八月
辛巳筑前国宗形郡大領外從六位下宗形朝臣深津授
外從五位下云々並以僧壽應誘造金埒船瀬也と有ハ

船瀬を造れる方小依れりと雖も已に大領あり五位
あり神主を兼たり例あり光仁天皇宝龜九年四月
庚寅授筑前国宗形郡大領外從八位上宗形朝臣大德
外從五位下と有る右の同く又右の引了延暦十九
年格の大領兼神主外從五位下宗像朝臣池作と云入
名出たり此時の郡司神主職掌各別莫令郡司兼帶神
主と有る其後の唯神主のこ補せしれこ五位
をこ停これこ見えて朝野群載六卷白河天皇應德
元年七月廿七日大宰府下太政官符下應以正六位上宗形朝
臣氏道補任管筑前国宗像社大宮司長任職事右得氏

道去四月廿九日解狀你謹檢案内當社之例大宮司秩
滿之後氏中以為長者之者被補任職累代之例也今氏
道尤當其仁望請官裁因准先例補任大宮司者正二位
權中納言兼治部卿太皇太后大夫藤原朝臣伊房宣依
請者府宣兼知依件行之符到奉行右小史大宅真人と
見えたり其委こ事こ傳十五三十三小就て明こ玉
可こ又宗形部と云有り其朝臣の姓の賜こさるこ
皇和銅二年六月辛丑筑前国御笠郡大領正七位下宗
形部堅牛賜益城連姓と有る此こ和名抄こ肥後国益
城郡益城郷有る其地各々因て賜へる姓こなるこ又
肥前国土記こ基肆郡姬社郷云こ昔者此川之西有荒
神云こ干時こ求崇こ由兆こ云こ筑前国宗像郡人珂是古
祭吾社若合願者不起荒心覓珂是古令祭神社云こ於

○日本書紀傳三十

○五百三十一

是亦織女神即立社祭之云と有る織女神ハ傳十五
卷三百三十二下注るガ如く宗像神ハて御在一坐
セハ其姓ハ云されども河是古若の其畿内ハ在る宗
若くハ宗形氏の人ある可ハ形朝臣ハ統紀ハ元正天皇養老五年正月戊申朔甲戌
詔曰文人武士国家所重醫下方術古今期崇宣擢於百
僚之日優遊ハ學業堪為師範者特加賞賜勸勵後生と有
る中ハ賜醫術正七位下曾形朝臣赤麻呂絶十足緑十
約布二十端銀二十口と有る醫術を以て仕奉れりハ
大神朝臣と同祖なれハ大己貴神より次と傳へたる
方有て其事ハ功ハありけり天平十二月正月
庚子授正六位上宗形朝臣赤麻呂從外五位下同十一月

丁酉至鈴鹿郡赤坂頓宮甲辰詔陪從文官并騎兵及子
等ハ賜爵一級と有て授外從五位下宗形朝臣赤麻呂
外從五位上と見え同十七年正月乙丑天皇御大安殿
宴五位以上詔授外從五位上宗形朝臣赤麻呂外正五
位上と有る此人右ハ謂ゆる曾肩朝臣德善の庶子ハ
て右京神別下ある宗形朝臣の祖ある可ハ其河内国
の宗形君ハ此と姓異なれハ又別ハ一流と所見たり
備大同柔聚方廿四ハ勢戸布藥正七位下曾形朝臣赤
麻呂之家の方又三十七ハ水戸門藥醫徒奴国可牟郡
伊豆三島之神社之神傳之秘方曾形朝臣阿古麻呂之

傳邊豆所上奏之久須里也と有る皆共山同ト人ある
のて當昔醫術の聞え世々名高りり一人ありけり故
其徳善の仕奉るれ一天武天皇の都ハ飛鳥淨御原
めけれハ彼神名式ハ所見たる城上郡宗像神社三座
並名神大の御社ハ筑前本社の如く仕奉りて朝廷ハ
勤仕りれけむを後ハ其女の生奉れる高市皇子命の
御末と有る高階真人の氏人と為て仕奉る所由を
ハ傳十五三百四ハ云り合せ讀べハ又大和国ハ宗
紀ハ元明天皇和銅四年閏六月甲子宗形部加麻伎
賜姓ハ大連と有る穴太ハ安康天皇前御紀ハ都于
石上是謂穴穗宮と有て天皇の大御名ハ負御在
ハ坐て大和国山邊郡の地名ハ今田村と云所是る

り紀記共ハ穴穗と書されたるを
姓氏録穴太村主の穴太是例あり ○姓氏録山城国神
ハ狗人野大物主命兒擲日方命之後也と有る狗人主
と云事ハ投化ミカトヤサリの高麗人を主掌る職ハ起れる有る
可一 同録山城国ハ狗造高麗国主夫連王之後也と
見え和名抄郷名ハ相樂郡大狗下狗之毛都と云有り
大狗ハ今上狗村と云是あり即万葉六十四ハ狗山
尔鳴霍公鳥泉河渡宇遠見此間尔不通と詠ハ催馬樂
山城ハ也末之呂乃巴末乃和太利乃宇利川久利云ハ
と有る即此地ハ泉河の邊あり又同録大和国神ハ
長柄首天乃八重奉代主神之後也と有る長柄ハ神武

公仁和元年十月八日
己未授櫻津國正六位上長柄神從五位下
又有八彼謂難波長柄宮の長柄あり可く此

天皇己未年御紀小臈見長柄立碑と見え天武天皇九年御紀小九月癸酉朔辛巳幸于朝陽因以省大山位以下之馬於長柄社乃俾馬的射之と有る地是あり長柄ハ古事記輕之環原宮殿見えたる葛城長江曾都昆古と有る依て那賀延と訓べき事云と更あり即神名式小大和國葛上郡長柄神社御と有る即事代主命御御在一坐之云り又河内國若江郡長柄神社御此例俗小守神と申す其神の所以ある事下五百の又三代實録△あるれ又同錄未定雜姓小三歲祝大物主神五世孫意富太多根子命之後者不見と有る三歲祝ハ神名式小謂ゆる葛上郡葛木御歲神社名神大月と有る此社次新嘗

の祝ある可きが三代實録ハ貞觀八年二月十二日己未神祇官奏言大和國三歲神申無神田而新置之致崇咎實由之仍更停止と有る思ふ小當社ハ往古より祝のこめて任奉れりけむを更ふ其上小神主を置れたりし神の崇給へるこて其實ハ傳廿六百二十注るが如く彼大地主神の由緒小依て其神裔の人の祭を享させ給ハむとめて神主を殊小忌嫌給ふハ非る可し又其百三十上四十も注るが飛彈國大野郡水無神社ハ一宮記ハ御歲神云るハ然る事あるハ大同類聚方ハ飛太郡大野郡御歲祝之所傳云と大

已貴命所授也。有_レ此三歲祝_ニ共_ニ同_ニ神孫_ニ有_レ。
故_ニ大_ニ已貴神_ニ有_レ所傳_レの神方_ヲ傳_ヘたり。者_ハ有_レり
けり。但_レ此_ハ混_ル事_ハ有_レり。地_ノ神_ノ本_ノ紀_ハ高_照光_姫命_ハ
大_神命_坐後_國葛_上郡_御歲_神社_ト有_レ此_ハ姫_命ハ
即_下照_姫命_の御_事有_レり。此_ヲ御_歲神_ト有_レり。申_ス此_ハ非_ハ
其_從祀_ト成_テ御_在坐_{有_レり}。此_ヲ御_歲神_ト有_レり。申_ス此_ハ非_ハ
神_社の_御事_ヲ大_已貴_命女_高照_光姫_命ト_云ふ_也。其_地
神_本紀_の意_ヲ能_ク得_ズ。此_ヲ御_歲神_ト有_レり。申_ス此_ハ非_ハ
を_正して_心得_ル。○_姓氏_録和_泉國_神ハ_長公_大奈_摩智_神
べき_事共_{有_レり}。別_地祇_ハ長_公大_奈摩_智神_ハ
兒_積羽_八重_事代_主命_之後_也。有_レ此_ハ長_ハ攝_津國_の
地_名の_起り_たる_可き_事次_ハ云_べし。又_長直_ト云_ふも_有
り。統_紀ハ_光仁_天皇_宝龜_四年_五月_辛巳_阿波_國勝_浦郡_の
領_長貴_人立_言庚_午之_年長_直籍_皆著_貴之_字因_茲前_郡

領長直收父披訴改注長直天平宝字二年国司從五位
下豊野真人篠原以無記驗更為長貴官判依庚午籍為
定又其天下氏姓青衣為宋女身中為紀阿曾美為朝臣
足尾為宿祢諸如此類不必從古と有_レ此_ハ長_公の_同
旗_たる_可き_事國_造本_紀ハ_謂ゆる_長國_造も_出自_ハ異_ハ
あり_と虽_も同_ト地_ハて_允恭_天皇_十四_年御_紀ハ_見え
たる_阿波_國長_邑是_{あり}右_ハ長_直ハ_勝浦_郡人_{あり}と
も古_ハ勝_浦郡_賀の_二郡_分れ_ずト_共ハ_一あり_けり
あり_可し_和名_抄郷_名ハ_那賀_郡和_泉伊_豆と_有ハ_右の
長_公より_別れて_長直_ハ此_ハ出_来れ_る故_{あり}と_云ふ_也

△長我孫と云有り

有けり神名式ハ勝浦郡事代主神社御在り坐ハ其氏
神あり可き事申すも更あるハ御縣神社ハ天日方高
日方命ハて御在り坐べくして亭由有る事共あり又
統後紀ハ仁明天皇養和二年十月戊子攝津國人從立
位下長我孫葛城及其同族合三人賜姓長宗宿禰事代
主命八世孫忌毛宿禰苗裔也と有る長我孫是あり我
孫ハ右五百二十ハ大神大網造の事を説きて引る姓氏
録攝津國神別地祇ハ我孫大己貴命孫天八現津彥命之後也
と有る合るを見れば右の忌毛宿禰ハ大神朝臣の同
族ハて忌毛一本の忌毛す有る此ハ忌毛と云事ハて彼神酒の事ハ申有て

△古小引る姓氏録
ハ長柄首天乃八重
事代主神之後也
と有る合てて昔

ころ思えたれ故思ゆハ天孫本紀を以て替ふるハ十
世孫大御食持命ハハ事代主神より八世ハ當れ
ハ忌毛宿禰ハ其々同ト人あるハや御食と忌毛と
言甚近きを以て試ハ云あり儲長公長直長我孫長宗
宿禰等の長を攝津國の地名ハ起れるありと云と思
き由ハ上二百四ハ注るハ難波ハ味鉏山又高彥崎の
地名有り又孝徳天皇御紀ハ謂ゆる難波長柄宮ありと
皆此事代主命の神迹と思しきハ猶万葉七十三
ハ住吉之各兒之濱邊亦又奈吳乃海之朝開之奈疑亦
と其余ハも多く歌ハ詠る各兒ハ長峽ナガセの切れる者

よて神功皇后元年御紀に謂ゆる大津滯中倉之長峽
是ありければ長公、長峽公長直、長峽直長我孫、
長峽我孫ありむを那基と約り再轉りて那賀と云
るありて、又其名見之廣邊亦有並び吾見之鹽
干尔玉者將拾又阿胡乃海之朝明之鹽
と有し同ト地ある由云り其那基あり又轉れる
る可ければ今云限の非あり又其神功皇后元年
御紀に亦事代主尊誨之曰祠吾干御心長田國と有
同國八部郡の地名にて同ト國內の事あり在れども
右の長我孫の事あり本より預るがして別あり諸右
の長公を稲彦本の頭書に眞龍之長字下脱柄字と
云ひ百樹之拾苴抄有長柄直而無長公者と云れども
然る時、長直も長柄直と長我孫も長柄我孫と為
る。○國造本紀に都佐國造志賀高穴穗朝御代長阿比
古同祖三島溝抗命九世孫小立足居定賜國造と云事

有り長阿比古、右引る如く仁明天皇御紀に事代
主命八世孫忌毛宿祢苗裔也と有て其同族の長公を
姓氏録に大奈牟智神兒積羽八重事代主命之後也と
書し長柄首天乃八重事代主神之後也と有ると此事
に於て異説ありむ非りければ決めて此に誤有べく
思えたる諸其三島溝抗命と申すに此一書に謂ゆる
三島溝城姫命の御祖にて渡りせ給ふ可き由次五百
十
に注し如くありければ其御子孫の謂ふ難取く
あり有ける其姫命の事代主神の合奉りて其生坐る
御子某の孫と云事あり可きめり然れば事代主命九

世孫小立兄居之假此を見る時ハ石ハ云々御氣持
 命之忌毛宿祢之を一ハ見テ其子ハ一七九世ハ當れ
 一ハ大鴨積命大友主命田彦命等の兄弟ハ在リ
 一ハ神名式ハ土佐郡都佐坐神大御在リ坐す此ハ
 右四百九ハ注スガ如ク雄略天皇の大御世ハ大和国
 一ハ高鴨神を移奉給ヘテ後の事ハ在れども
 地神本紀ハ八世孫健飯賀田須命此命鴨部美良姫為
 妻生一男九世孫大田根子命と見えたりハ已ク上
 一ハ甘茂君大三輪君等ハ大ハ由緒有る事ハ思及
 一ハ一七曉了可き者あり一
 一ハ因云土佐国古ハ都佐国
 一ハ波多國ハ二国あり一

一ハ波多國ハ今云ハ播磨郡是あり國造本紀ハ波多
 一ハ國造瑞籬朝御世天韓襲命依神教云定賜國造ハ有る
 一ハ此命ハ父祖更ハ考ふ可キ據無ク神名式ハ播多郡高
 一ハ市坐神社御在リ坐す地神本紀ハ都味齒ハ重事代高
 一ハ命坐神國高市郡高市社有ハ神名式ハ大和國高市
 一ハ郡高市御縣坐鴨部事代主神社大月次新嘗と有る是ハ
 一ハハ然ルハ和名抄ハ高市郡波多郷有る以見ルハ工佐
 一ハの高知坐神社ハ波多國ハ号ハ大和國ハ一ハ移セテ其
 一ハ事著明ハ又幡多郡賀茂神社御在リ坐すハ考合
 一ハ任國ハ赴レテ例ハ賀茂命ハ大和國ハ一ハ其神を奉テ其
 一ハ音ハ加年と訓テ例ハ賀茂命ハ大和國ハ一ハ其神を奉テ其
 一ハ曾都昆古ハ賀茂朝臣ハ熊襲ハ襲アゴト同ト武義ハ此
 一ハハ例ハ賀茂朝臣ハ熊襲ハ襲アゴト同ト武義ハ此
 一ハハ外ハ証を見當ルハ○姫踏鞴五十鈴姫命ハ此ハ
 一ハハ大三輪之神の御子ハ趣あるを次ハ又曰事代
 一ハ主神化為八尋熊罴通三島溝楨姫或云玉擲姫云々

○日本書紀傳三十一

○五百三十八

書され神武天皇庚申年御紀の天皇當立正妃改廣求
華胄時有人奏之曰奉代主神共三島溝掖耳神之女玉
御媛所生兒号曰媛蹈鞞五十鈴媛命云と見えたるは綏靖天皇御
紀の母曰媛蹈鞞五十鈴媛命奉代主神之次女也と書
され又其二年の春正月立五十鈴依媛為皇后即天皇
之姨也と有て安寧天皇前御紀の母曰五十鈴依媛命
奉代主神之次女也と見えて御紀の趣は次女を姫蹈
鞞五十鈴媛命と申し次女を五十鈴依媛命と申し
て共の奉代主神の御女あり申あり地神本紀の都
味齒八重奉代主神化為八尋熊罴通三島溝抗女治

玉依姫生一男一女児天日方奇日方命云と妹姫蹈鞞
五十鈴媛命云と次妹五十鈴依媛命云と有て此の
も姫蹈鞞五十鈴媛命を奉代主神の御子の中より收め
たりと云も此の疑有は右の如く活玉依姫の生給へ
るは一男二女あるの生一男一女と云るは其二女の
中の一柱は後人の加入たる者あるわて其始は天
方奇日方命妹五十鈴依媛命と有て実の生一男一女
と有が如くは有けの然るを天皇本紀の奉代主神
生之児号曰媛蹈鞞五十鈴媛命と書したるは御紀の
依て書し者あり地神本紀も其の因て文を改めたる
辨ふべきあり備此の姫蹈鞞五十鈴媛命を

大三輪之神の御子と有り古事記にも是謂神御子と
書して美和之大物主神の御子あり申して此も又曰
と有り傳と相承けるも孰し何れ正しと今此を訂
し見るも大三輪神三社鎮座次第も復三島溝掘耳大
女踏鞮媛為美人或時媛為大便之節大物主神化丹塗
矢突陸元尔媛驚乃將末其矢置於床邊忽化為美麗壯
夫乃於奇御戸為起而生女名曰媛踏鞮五十鈴媛命於
是天孫神日本磐余彦天皇即位于臥傍擅原宮欲立正
妃廣求華胄時有人奏曰大三輪神之女宅居于春日率
川本名殺井川之邊是国色之秀者也天皇悅之喚媛踏鞮五

十鈴媛命納宮為皇后云々書して其別宮小社之事
と有り葛城賀茂神社の下も八重奉代主命也大己貴
命之子女曰神稚媛化為八尋熊罥通三島溝掘耳小女
玉御媛生一男一女是天日方命賀茂主命五十鈴依媛命
葛城高丘宮御宇天皇皇と所見たる如此く條理分別
后即磯城津彦天皇父了く時の其混ぶ方無くして甚明くも聞ゆめり然
して其を約め云時三島溝掘耳命も大女小女二柱
御在し坐ける中も大女と踏鞮媛命と申す即古事記
の謂ゆる勢夜陀多良比賣の御妻是あり大三輪大物
主神の御妻と成て生坐る御子即姫踏鞮五十鈴姫命

小て渡りせ給ひ其小女玉柳媛命ハ事代主神の后と
成て其生坐る御子天日方高日方命と五十鈴依姫命
と二柱御在り坐あらず有ける斯れハ其天日方高日方
云ハ紀記共ハ誤りあり又姫臨韮五十鈴姫命を事代
主神の御女と云ハ御紀ハ更あり地神本紀共ハ誤れ
鴨主の御事あるを鎮座次第ハ賀茂主命父と有
誤り能ハ正し并ふ可き事共ハあむ其大物主神の御
女ハ正しく相違有あらず惟ある證ハ神名式ハ謂ゆ
る大和国城上郡狹井坐大神荒魂神社五座歟の御事
を大倭神社注進狀ハ別社狹井神社在大和国傳聞狹
井神者大己貴命之荒魂大日魂神即當社別社也相殿

神四座大物主神姫臨韮五十鈴命勢夜多良比賣事代
主神と有て其勢夜多良比賣の下ハ古事記三島湍咋
之女名勢夜多良比賣溝楸姫湍津国三島之人神名帳
其容貌麗美故美和之大物主神娶其人生子名謂比賣
多良伊須余理比賣故謂大神御子也其伊須余
理比賣之家在狹井川之上神倭伊波礼昆古天皇幸行
比賣之許一宿御寢坐後参入宮内阿礼坐御子名神沼
河耳命約靖神名帳曰大和国漆上郡率川坐大神御子
神社三座又書ハ右の大物主神姫臨韮五十鈴命勢
夜多良比賣の三神を率川神と為るハ其大神御子神

と申すハ右の姫踏鞠五十鈴 命を主として祀れる
由の社号あり但勢夜多良比賣の名の下に溝掘姫の
名を注すハ記者の誤あり然して其事代主神ハ次ハ
謂ゆる三枝御子社一座と有る是ハ其三座の外を
内儲其率川神社の下ハ大神氏家牒曰小治田豊浦宮
御宇天皇推古御世建大神御子神姫踏鞠五宮於春日率
川邑本名狹井川邑大神君白提奉斎之大宝年中始行祭礼今
三枝祭是也養老年中左大臣藤原建子守御母三島瀧
姫狹井神大己貴命荒魂大國魂命兩神社奉斎為と有て姫踏鞠五
十鈴命を主として祀るハ事あるが鎮座次第ハ此を

△右ハ大物主神五十鈴
姫命勢夜多良比
賣を合せて此率
川社の祭神ある
趣ありハ

春日三枝神社と有て媛踏鞠五十鈴媛命也小墾田宮
御宇天皇御世大三輪若白提奉勅立社於春日邑率川
坂園兩所奉斎媛踏鞠五十鈴媛命大物主命也平城宮
御宇天皇御世益造兩社之相殿為三座又始行三枝祭
是大神氏長奉社之と見えたる此ハ五十鈴媛命を率
川ハ大物主命を校園ハ令祀りれたる由あるハ神祇
令孟夏三枝祭集解ハ此ハ麓靈和靈祭と有るハ右
の二柱を一座として此ハ令祭るハ事傳廿六十九
ハハ己み注るが如し又此ハ益造兩社之相殿と有ハ
右の注進狀ハ謂ゆる子守神狹井神兩神社を益造り

三座と被為たる趣あるが右の如く子守神の勢夜
 多良比賣の當れを下の玉擲姫の名を注せりも
 記者の憶説ある事右の女小女の差別を云ふ正
 して辨ふ可き者あり又注進狀率川神社の別社の三
 枝御子社一座 南家口傳云藤原是公 傳聞狹井神之子
 事代主神名帳曰大和国添上郡率川阿波神社云々
 と有て此大神御子神社阿波神社の二社を狹井神五
 座を合せ祀れる者あり又其坂田の神名式に添上郡
 狹田神社八座と有る是ありが此の右の狹井神五
 座小園韓神三座を合せ祀れる者と所見たり右の如

大室年中始て
 三枝祭を行はれ
 養老年中

悉く條理明らる見元知らる上ハ姫踏鞴五十
 鈴姫命ハ実ハ大物主神の御子の御在り坐す事更ハ
 疑無くある有ければ此ハ大三輪之神の御子と有る
 古事記と共ニ甚し正し古説と聞えたる 儲左大
 公の此兩社を建りたる事ハ就て考有り上四百九
 十七下五百十下注るが如く此不此等公の御妻ハ
 正四位上賀茂朝臣此賣ハ其生給へる藤原宮子
 娘ハ文徳天皇ハ娶れ奉りて夫人と成給ひ聖武天皇
 を生奉給へる所以由れ奉りて者ありの由此三枝祭
 を行はるるハ本より此春日三枝神社ハ其御子を守る
 ハ在れども竊幸の義ハ取り子守神ハ其御子を守る
 と云事ハ思寄れつる者あり賀茂朝臣ハ本あり
 大田の根子命より出たりけり此事ハ就て殊更ハ
 氏神の如く尙奉りたりし事ハ思はるし猶狹田
 神社等の御事ハ下五百
 十下注す可し
 ○故其姫踏鞴五十鈴姫命の

生出させ御在し坐ける事件、古事記白檮原宮飯小
然更求為太后之美人時大久米命曰此間有媛女是謂
神御子其所以謂神御子者三島湍咋之女名勢夜陀多
良比賣其容姿麗美故美和之大物主神見感而其美人
為大便之時化丹塗矢自其為大便之溝流下突其美人
之富登此二字用尔其美人驚而立走伊須岐伎此五
音乃將末其矢置於床邊忽成麗壯夫即娶其美人生子
名謂富登多良伊須岐比賣命亦名謂比賣多良
伊須氣余理比賣是者惡其富登云故是以謂神御子也
略於是其伊須氣余理比賣命之家在狹井河之上天皇

幸行其伊須氣余理比賣之許一宿御寢坐也其河謂佐
於其河邊山由理草多在故取其山由理草之其河由者
名号佐葦河也山由理草之本名云佐葦也と有る此
事ハ記傳二十十一ハ委一ハ説ハハ今更ハ言加
ふ可くも非ぬ物う予が見解の又異ある所も有る
故亦方の鎮座次第及注進狀をも合せて此を注す
可きあり但九ての事ハ其ハ委任ゆて此ハ其事也
小且事の之を云べし然更求太后之美人時大久米命曰
神武天皇庚申年御紀小天皇當正紀改廣求華胃時有
久奏之曰云々と有る是あり此間有媛女是謂神御子
と有る媛女ハ記傳ハ哀登賣と訓れたる如く女女の

謂あるが右の如く、此近き程小生坐し御子の如く
聞ゆる物より熟思ふ事代主神の玉櫛姫命小聚坐
て生坐る天日方奇日方命ハ一も神武天皇の大御世
迄直る人あれども己小国造の古より御在し坐し狀
ありければ其も甚く己き事と所思しき小合せて大
物主神の此蹈鞞姫命を娶給ひて五十鈴姫命を生給
へるも本より古き事ありけむを神武天皇の初国所
知者させ給ふ頃間不至りて其太后と為て見えさせ奉
給ふ可き為其狭井河の邊小家居し給へるを世
人の奇りたりて諺に神御子と崇めて可畏き物小傳

き聞えたる由あり記傳小神御子と大九神社の
生坐る御子を云あり御靈の顯壯夫化して女を娶て
子と云ふ類ありと云れたる然る言ふが未此所
の意を能も盡されざる者あり此御子の常女女めて
御在し坐けるを人皆奇靈神御子と申し又意富
多し泥古命を神子と申せる大己貴神より世に隔
れども直小神子と云べき所由有る事ハ已小上四
百八十六丁三島湊咋の事ハ下五百丁云へし勢夜
陀多良比賣ハ注進狀引る古事記ハ勢夜多良比
賣と有て陀字無し多良を多良の如く訓あるめて
り鎮座次第ハ三島溝楯耳大女蹈鞞媛と有り名義
ハ此の事實ハ合せて説へし勢夜ハ進矢と云事ハて
和名核小征箭和名曾夜と有る曾の征の字音より轉

△以其生奉れる御
子の御名を富登
多良伊須此地
賣命と申也

ゆるあゝむうと思ひしごとく猶其も進矢の義あり
ありけり陀多良の言の続き依て上を濁る事あり
ども其本語多良のて其丹塗矢の立つ事めて謂也
突其美人之富登と云是あり多良の多知
事乃万葉七三十一陸奥之吾田多良真弓十四十五
安太多良乃祢尔布須思之能又十六美知乃久能安
太多良末由美と有を神樂弓歌美地乃久乃安津佐乃
万由美を古今集梁莖枚体源枚共安太知乃万由美
と有り即其安太多良陸奥の地にて和名枚郡名小
安達安多と有る是あり又姓氏録山城國諸小多良
蕃任那

公云、猷金多利金平居等天皇誓之賜多良公之
姓也と有る此多利線柱の事ありども又多良
の唱も有る是多良ハ多利ある傍證も備ふ可
きあり然る時、勢夜陀多良比賣と申す、此ハ大物
主神の丹塗矢ハ化して娶給ひ其所以小由り御名
ある可き事申すも更あり記傳ハ勢夜ハ地名ある可
し聖徳太子傳曆ハ勢夜里と云見えて今大和國平群
郡ハ勢野村有る是あり可しと云れなり然れども此程ハ神名
ハ地名を以て負する事無りけれ此姫の住給ひ
地ありありけむう右の如く勢夜里と云名ハ有る

子可くぞ所思えたる注進狀ハ勢夜多良比賣の下ハ
溝極姫云々注せれども其ハ小女の名ありけれハ
此ハ當_レハ誤ある事己ハ辨へたるが如シ陀多良を記傳ハ
内膳司式漬年科雜菜の中ハ多良比賣花橋三斗科
鹽三斗と見え衛門府風俗哥ハ多良比賣ハ乃花字鏡
ハも萃太良女と有り此花の名此比賣ハ田縁有テ
著_レた_ルハ_レ云れた_ルハ天武天皇元年御紀伊賀国地
名ハ新菰野と云有り其物ハ和名抄ハ按知名太良小
木叢生有刺也と有テ今も多良比賣と云テ春の頃獨治
の如ク芽を出す物あり其を多良比賣と云あり
を比賣と云ハ如何ある由ありハ知ざれ_ルハ此姫
ハ由縁有_ルハ其容姿美麗故ハ鎮座次第ハ為美人と
思へ_ルずある也
有_ル是あり美和之大物主神の御事ハ傳廿九十八ハ
季一_ク注_ス奉_ルガ如_ク見感而ハ記傳十七二十ハ海

神宮段ハ有麗紅天云々ハ爾豊玉毘賣命思寄出見乃見
感目合而日代宮段ハ見感其孃子あり見えて見驚見
喜見畏あり有_ル類の古言ありと云れた_ルハ如_ク為
沃便ハ記傳ハ加波夜尔伊礼流と訓ハ日代宮段ハ
朝入廁之時云々之例も有_ルハありと有_ルハ丹塗矢
ハ大物主神の顯身あり_テ婚給へ_ルむハ其美人ハ
諾奉_ル事ハ所知着_テ矢ハ化_シ美入の身ハ近
著_セ給へ_ルハ傳廿六百九十八ハ注_スガ如_ク火雷神
の御靈の丹塗矢ハ化_シ事代主神亦名大山咋神ハ射
放_レ此御在_リ坐_テ川上より流下_リ世御在_リ坐_テ玉

依日賣の身小副御在坐けると全相萎たる事ふり
為大便之溝流下ハ記傳ハ此七字を訶波夜能斯多ト
訓ベハ古訓ハ溝流の上小造て放たる原ハ即其水ハ
流失了如く構たる故小河屋ト云あり今世ハ如此
構たるも有あり万葉十六十八ハ川隅カハカト訓て川ハ廁
を持せたる歌有り又今世ハ児の尿屎を受る器を御
河ト云も是ありト有り其廁を造れる溝流ハ下ハ於
是其伊弉氣余理比賣奉之家在狹井河之上ト有ハ依
ハ必狹井川あり可ハ備右五百四十一ハ引ハ注進狀ハ此
姫踏鞠五千鈴姫命の御母神を子守神ト書せるハ此

勢夜陀多良比賣ト申すハ此ハ丹塗矢の隈元を突た
りハハりの名ハ子守ハ全体の名あり若ハ三島
溝穢耳命ト申すハ下五百九十四ハ注ハるが如く靈神ハ
渡ハせ給へるハ就て思ふハ子守ハ水分の略あり可
ハ備上百六十ハ引ハ播磨風土記ハ其永郡安師里云
ハ為安師者因安師川為名其川者因安師比賣神為名
伊和大神將娶訖之ハ爾時此神固辞不聽於是大神
大瞋以石塞川源流下三ハ形之方故此川ハ水ト有る
安師ハ阿那志ト訓べハ雨ハ成ハの義あり其を
雨師ハ神ト書て靈神の御事あり由傳廿九八十ハ已ハ

注るが如く以石塞川源と有も水中に任給ふ由あり
若て其三輪山の北に穴師山ありて狹井川の水源あり
けれハ勢夜多良比賣の此に移り御在りけむを先ハ
其詭給へるを聴ざり故ハ丹塗矢ハ化て然後ハ麗
壯夫と成て遇給へるや有けむ此一書ハ事代主神
化為八尋熊罥通三島溝楫姫と有も尋常の女神ハ御
在り坐せしむわハ殊更ハ八尋熊罥と化為て給ひ給
ふ可きハ非るを以ても此大女小女共ハ正身ハ謂由
ハ靈神ありけむ事著明き者ありけむ
も靈神ありけむ御在り坐ける身を易て人体と化給ひ大物
主神ハ本より人体の神ありて御在り坐けるを更ハ丹

塗矢と化て遇せ給へるありけむ一突其美人之富登ハ鎮座次第ハ大
物主神為丹塗矢突陰元と有る是ハ右ハ云々如く
此美人を勢夜陀多良比賣と云ハ進矢立姫の義其生
坐る御子の御名ハ富登多良又比賣多良と良と負
坐るも陰元立の義あり是あり若て此矢ハハハも眞
の矢ハハ非ず神の化坐るありハ其突ハ云ハ己ハ大
物主神の此に講合し給へるありけり彼山城風土記
の丹塗矢の川上より流下る事を賀茂舊記本朝文集
等に有美箭流来依身と云も如此く顯ハ云ずハこと
有けれ依身と云ハ必陰元を突たるあり可き事己ハ

傳廿九百九十 注子九丁を合せ考ふ可し次ノ故其美人
驚而立走ハ驚レ忽ニ走去を云ふ此立走の語ハ景行
天皇四十年御紀多クハ三ツハ是ハ海耳可立跳渡万葉五三丁ハ
難波津ハ美船泊農等吉許延許婆紐解佐氣五多知婆
志利勢武多ク有リ次ハ伊須ノ岐ハ往イ噪スあり記傳
ハ即驚て立走ル狀ありレ又有ハ然ル言ハて其引レた
る大殿祭詞ハ夜女能伊須ニ伎ト有ル夜女ハ夜目ハ
て朝目ノ對あり伊須ノ伎ハ往イ噪クみテ夜物を見る
時ハ然カ氣無キ事ハも立走リ驚ハ駭ハ事有ルを云あり
次ハ伊豆都志伎事無ク又有ハ稜威ノハノ事無ク

云義ありを合せ考ふ可しノ伊須ノ伎ハ祭語
ハ非ズして伊往伊隱ハ往イ又往イ隱ノ義あり
是あり須ニ久ハ其大殿祭詞ハ取テ草計草乃噪伎無ク
と有ル噪を古語云ニ蘓ニ岐ト有テ草ノ乱乱くるを云
ハ万葉十六九ハ古部狹寸為我哉と有ル狹ノ寸ハ
同トくテ騷ギ治リぎリ義あり源氏ノ帚木四丁ハ
西面ノ格子曾ニ岐開テ紅葉賀下ハ何時トハ雛ヲ為
居テ曾ニ岐居給ヘリ又二丁十眼皮ハ甚ク黒ク落入テ
甚ク外ハ曾ニ計九梅枝下ハ曾ニ計九葦
の生様多ク難波ノ浦ハ通ヒテ若菜上ハ七丁十天兒下

御午自造り曾、久理御在するも是若くは横笛
 丁小耳授と為て曾、久理繕うひし。又采花物語
 炫く藤 小曾、伎立て之、狭衣小若宮御在して曾、
 伎歩き給ふあり有、記傳、今世の人の琴止靜やう
 あくす騒がしきを曾、許志と云も同言ありと云れ
 たる是めて其義を曉る可き者あり。又記傳、推卷十
 門を云く驚きて聞させ給ふ御門守寒けある氣ひ
 宇須、伎出来て速小も得聞え遣すと有る宇須、伎
 も同言ある可し伊、宇須、殊、直、通ふ音あり云
 こと云れたれども伊、須、岐、と等しう、此、門、守
 が寒げある氣ひして速あるぬを云めて宇、須、の
 義めて進まざる状あるを云れば伊、須、岐、の及、
 成て其意大に異、將、来、其、矢、置、於、床、邊、何、と、無、く、異、
 れる者ありけり。

多良、矢、の、立、つ
 事あり矢の立つ
 續紀第四十五、
 類、不、立、止、云、云、
 又野府紀長元四年
 二月廿九日の下、
 入中納言家於他處

思えけむうう人あも知せず持来ふ床邊に置たり
 あり山城風土記あり乃取椽置床邊と云ひ舊記文集
 共小即取之椽床下と有るを合せて此の状をも知
 へきあり次小忽成麗壯夫、忽小大物主神の御形と
 成て見えたり。給へるあり舊記文集共小夜化美男相副と有
 り似通ひたり即娶其美人を鎮座次第小、乃於奇御
 戸為起而と有、此、第、一、書、小、依、て、書、る、あ、る、可、き、が
 甚愛たり其事、傳、廿三、二百六、廿四、十、小、云、り、富、登、
 多、良、伊、須、岐、此、賣、命、の、富、登、右、小、美、和、之、大、物、主
 神、之、化、丹、塗、矢、之、突、其、美、人、之、富、登、と、有、る、事、の、状

中就て負坐る御名ある者あり伊須岐ハ即右の立
走伊須岐伎と有る事ハ因れり由己ハ記傳ハ注さ
れたるが如し其亦名を比賣多ニ良伊須（兼余理）比賣余
と申す比賣ハ左の細書ハ是者悪其富登之事後改名
者也と注されたるが如くハ本ハ富登と云つるを
余リハ事の顯ハあるを忌憚りて言換りれけり由ハ
その比賣と云も傳五十四ハ説る如く比古の陽元
あるハ對ひて其陰元を云稱（あて同）富登と云（時）
直ハ其所を指す稱と成り比古比賣ハ己ハ男女を云
稱として人此を異ハおぼる故ハ同義ハ言ハ云換り

れつる者ありけり伊須氣（兼理）伊須岐の言を換たる
めて其意を別ハ稱奉ると聞ゆ伊ハ右ハ云る往ハ義
めて其下文ハ後其伊須氣余理比賣參入宮内と有る
是あり可く須氣余理ハ助依（スケヨリ）ハて續紀第七詔ハ立后
の御事を於天下政而獨知（信）物不有必母斯理幣能政
有（倍）と有る如く後の大御政を助仕奉らせ給ふ義ハ
可く此めてハ上の比賣多ニ良と係合さる如
くと雖も上ハ其坐坐る所以を以て申し下ハ太后ハ
御在り坐て共ハ天下を政ごせ給ふ今を以て稱奉
れる御名と心得むハ何ハ妨有べき但注進狀ハ引る

古事記ハ比賣多ニ良伊須ニ余理比賣ト書一次ハ
 出たるハ伊須ニ余理比賣ト有テ伊須氣を伊須ニ
 ト換たれども其ハ事代主神の御女ある五十鈴依姫
 命の御名ト混れて一ハ成れる者あり若テ此ハ姫踏
 鞆五十鈴姫命ト有ハ五十鈴ハ伊須ニ岐の伎を略ま
 テ申せるあり其五十鈴依姫命の御名の五十鈴ハ
如ク其義同ト有テ下六百二十一ハ云
右の姫踏鞆五十鈴姫命を舊事紀ハ姫踏鞆五十鈴命
ト有テ下ある者無キハ其重ある者ハ
ハ削去れる者あり可シ然ルハ上ある者ハ
ハ云テ如ク富登ト云を云換たる者ハ
事を云ハ姫ト異あるを能も知ざり
狀ハも其ハ從ひテ五十鈴命ト作り
多ニ羅ト有を其訓のニを用ひテ其物の義ハ

ざるハ本ハ故是以謂神御子也ハ上ハ是謂神御子其
 所以謂神御子者ト有テ結あり記傳ハ此迄大久米命
 の天皇ハ申給へる詞ありト云れき其次ハ天皇の其
 嬢子を婚ハせ給へる御事共有れども此ハ用無レハ
 神武天皇庚申年御紀ハ注一奉テ可一儲其下ハ於是
 其伊須氣余理比賣之家在狹井河之上ト有テ狹井河
 ハ記傳ハ神名帳大和国城上郡狹井坐大神荒魂神社
 五座鞆令義解又四時祭式あるハ狹井社ト有リ其所
 ハ在リ河あり可一著大和志ハ狹井溪源自三輪山遠狹
 井寺跡至著中村入纏向溪ト云リ實ハ此川ハ能尋

ぬ可しと有り若て傳廿九七十大國玉神の下に注し
か如く大倭神社注進狀に所謂大市長岡岬今狹井社
地是也と見えたる註狹井ハ本唯其河に就たる名不
りあり右の細書に其河謂佐彥河由者於其河邊山
由理草多在取其山由理草之名号佐彥河也山由理
草之本名云佐彥也と見えたる是れも其然る所以
ハ知れたり然るも右五百四に引了注進狀に春日
率川邑の下に本名狹井川邑と注し鎮座次第も大
三輪神之女媛踏鞢五十鈴姫命宅居于春日率川之邊
と有て其のとも本名狹井川と書せるハ其の狹井神

社ハ大市長岡岬に在り其岬あり地即狹井河の
河濱ありて狹井の地あるが故に右の如く神名帳に
も狹井坐大神荒魂神社と其地名を書されたるもて
穴師坐卷向坐他田坐あざと例ある事を能も思
はずして注し誤れる者あり猶云ハ其率川坐大神
御子神社三座の始に推古天皇大御世に大三輪君白
堤と云人の大神御子神姫踏鞢五を祀れるハ元正天
皇養老年中の子守狹井の二神を齋きて三座と爲る
由有て其狹井神ハ大國魂神を右の城上郡狹井神社
より迎奉れるハ非ずや此を以て狹井と率川といハ本

予り別ある事更の論無きを知べし其上関化^天皇元
 年御紀小遷都于春日之地^{春日此云}是謂率川宮^{此云}
 伊社^{有のこある}古事記の若倭根子日子大毘
 命坐春日之伊邪河宮治天下也と有て伊邪河と云
 ハ古き名あるを其時改れり^{右五百四十}注るが如く率川神
 社ハ狹井神社より移祀れり^{狹井あり}ある小其移れたる率川
 の方ハ眞の狹井ある時ハ其本社ハ狹井の名有ハ如
 何ある由と^{且古事記}為む却る事の齟齬ひたる事共あり
 且古事記白檮原宮段あり^{大后の御歌}も佐草
 賀波用久毛多知知多理と詠せ給へるも就ても

謂此深き地名あり^{由無}て容易く改めし^此事
 物部石持連公佐為連等祖と有^{其流}と思し^{世孫}姓
 氏録左京神別上天神ハ佐為連日牟六世孫伊香我
 色子命之後也山城国神別天神ハ佐為連饒速日牟八
 世孫物部牟伎利足居之後也と有^{佐為}連也
 以て其絶たる地名を以て姓ハ負心くも非れ^此を
 を知べし城上郡ハ狹井の地有て古より易く^此を
 参考国史家牒述作者也云と有て實ハ正史ハ秘傳
 ハ此無く愛たき書あり者^{作者の意}を以て注せ
 可き者^{故神祇}令孟夏三枝祭義解ハ謂率川社祭也以
 三枝華飭酒罇祭故曰三枝也と有^{三枝}

并草古事記山由理草之本名云佐草也或曰鳥扇也

注せるハ然る事あるめて三枝ハ佐佐久佐あるめて
音便ハ佐伊久佐ト云ベシ山由理草の本名ハ佐葺
久佐ありけれハ其必一ハ為ベシトさる者あり故
今思ふハ元来三枝ト云ハ傳廿二三百八十四丁ハ注三カ如
ク靈芝をも野干カラマツキをも菴菴ミナハをも云稱あり一莖あり
て三枝を生す草の形ハ依て号けたる者あり然れハ
山由理草を三枝ト云も右ハ同シ事云も更あり儲
其山由理草を佐葺ト云ハ真藍サアキの略めて阿葺ト云ハ
赤くも青くも黒くも色ハ染たる物を云稱めて紅花
を久礼奈葺ト云ハ然る物めて武藏風土記ハ墨田

川を藍田スミダカハ川と書るを以ても阿葺ハ色の名あるを知
べシ若て山由理草ハ一も記傳ハ東雅の説を引て百
合紅花者名山丹是也ト云れたるが如く色わの真赤ハ
物あるを以て真藍サアキト云と聞ハ斯れハ三枝ハ其山由
理の枝風を以て号け佐葺草トハ其色の美麗トを
以て云稱あるめて其本別あるを言の迫さハ依て誰
しも音の通ふありと思ふハ大なる僻説ト云べき
者あり儲此三枝集解ハ伊謝川社祭大神氏宗定而祭
不定者不祭即大神族柔之神也三花嚴鑄而祭大
神祭供此云麓靈和靈祭ト有る氏宗ハ上五百十ハ注

るが如く統紀の氏長とも氏上とも書て後世の謂の
 る氏長者の事あり備注進狀率川神社條中大室年中始行祭礼今
 三枝祭是也と有る事あれども然計り此神の止事無
 き所以の祭事あるを古の無して今小起り可き非
 けりぬ其本社と有る城上郡狹井神社の祭を此率川神社
 小して仕奉るるありけり己の大宝小出来て養老
 小奏覽せられたる令小三枝祭と有る率川神社小仕
 奉るる其頃の事ありけれども其古狹井神社にて行はれ来りを此小移され
 たる者ある事著き者あり然るハ右五百十下小注し
 公養老年中申有て子守狹井兩神社を合せ祀りて
 三座と爲られたる事あれども其より以前小大宝年

中此の始て三枝祭ハ被行たりけるハと爲る今
 始れり事を古き神事の中ハ並載りぬむハ天下の耳
 目を驚らす事ありけれども其古き狹井神社の祭を此
 小令行り此けむ事更に疑を容べきハ非る者あり
 一所以小率川神社の御事を鎮座次第ハ春日三枝
 神社と書して其祭の称を以て神名と爲り備此とハ
 別れて春日社記若宮末社の中ハ三枝明神率川大明
 神也と書し小社記ハ率川明神三所三枝明神正一位
 也在內院之南方と有ハ此地の地主神あとの謂ハ依て其内
 院小令祀りありむ令聞書一條禪閣御説ハ三枝率川社
 ハ春日山小在り春日明神遷坐以前小坐す神あり
 と有ハ此を云ある可し此を以て此率川坐大神御子

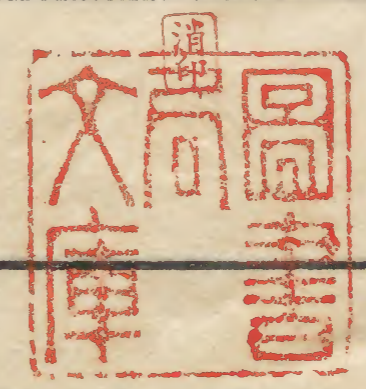
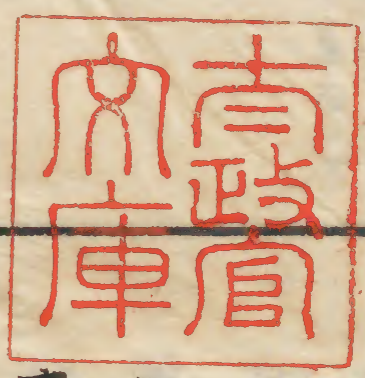
神社三座を三枝神社とも三枝明神とも中古に申せ
りし事を明くむ可し即文徳天皇室録に仁壽二年十
一月辛丑率川坐大神御子神授從五位下又所見たり
又右五百四に引る鎮座次第に小墾田宮御世天皇御
世大三輪君白堤承勅立社於春日邑率川坂園兩處奉
齋媛臨齋五十鈴媛命大物主命也と有る坂園に神名
式に謂ゆる狹園神社八座と有る是あり此に傳廿六
九十曾富理神禰神の下に云るが如く注進狀 率川
七十神社の別社三枝御子社一座と有る次に園禰神社三
座と有る條に集解所謂三枝和靈祭云當社之事と有

り就て考ふるに此二社も共に三枝祭に預給ふあり
けり神名式にも率川狹園阿波の三社を一に列ぬ文
徳天皇室録に右の次第に載りたり此八座の
中の三神に園禰神にて即大三輪神三社是あり此に
狹井神五座を合せて八神にて御在し坐ありむを注
進狀に大神氏家牒曰養老年中藤史亦建園禰神社奉
齋焉と有る狹園より右の三神を此時に抽出て祀給
へるやて是に三枝祭の便理に從はれたる者あり可
し但大和志に在法蓮屬邑佐保田に云は其本社在所
在を云る者あり仁壽二年十一月辛丑狹園神授從五

△下六百九十九
十五丁
奉事あり

位下之見ゆ又其^{注進狀}三枝御子社一座傳聞狹井神之子事
代主神名帳曰大和国添上郡率川阿波神社一座類
聚国史曰仁壽二年冬十一月辛丑率川阿波神授從五
位下即常社^常焉と有を公事根源集釈^今按率川與三
枝別社也率川社南有三枝御子社諸神記云件社右大
臣是公建立也因茲南家苗裔行此祭と有て謂ゆ^率
川南社是あり故伊呂波字彙抄式外神^{三枝率川社}
南有社号三枝名神御子也以三枝花^{酒樽}祭故曰三
枝祭也と有て此三枝御子社を式外^小列収たる^率
川阿波神社是あり事を知らり^故ある物^此社

も共々三枝祭の預給ふ事を知る可き證と成て甚愛
た^一と^七何^とも云へ^ハ更^{あり}但^四時^祭式^三枝^祭
三座^{率川}純一^足絲^一絢^一兩^綿五^兩五^色薄^施各^一丈
二^尺倭^文三^尺調^布二^端二^尺齋^布五^段木^綿麻^各十^斤
糸^六兩^弓三^張菟^一連^羽一^翼鹿^角一^頭鐵^三斤^五兩^酒
料^稻一^百束^神錢^二斤^堅魚^四斤^腊六^升海^藻四^斤鹽^一
升^五合^魁水^盆都^婆波^匝短^女杯^盞各^三口^杯十^五口^右
云^々依^前件^付祝^等令^供祭^と有^て官^幣を^被向^る率^川
神社^のと^{あり}也^も狹^園阿^波兩^社ハ^共々^其別^社あり
けれ^バ此^因ハ^被祭^る事^右小^注る^を以^知べ^一記^傳小



四時祭式此祭條ハ三枝花の事ハ見えざるハ官幣物の
 の限ハ非レバありと云れたる如くあれハ本社別
 社共小都て三所共ハ此三枝祭ハ預てせ給ふ可き御
 事ハ於て更ハ疑有べうとさす御事ハある玉又上四注
 せり又阿波の二郷有ハ右の率川神社阿波郡三枝
 佐有久佐と有ハ神名式ハ宮村岫郡神社江沼郡三枝
 社御縁ハ坐も由有ハ又下總千葉郡三枝郷有ハ同
 卜所縁ハ天津彦根命ハ出たり三枝部の多ハ十
 ハ其ハ由有ハ地名ハ常陸国那賀郡阿波山神社
 下ハ注せハ神式ハ常陸国那賀郡阿波山神社
 多珂郡佐波ニ地祇坐ハ此佐波ニハ三枝の轉
 了可クヤ三代実録ハ神観十七年十二月廿七日丙子
 授常陸国正五位上三枝祇神從五位下之有是あり

